

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、
ご利用いただきたくご案内いたします。
当社におきましては、皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽
を重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほど、
よろしくお願い申し上げます。

敬 白

記

■ 実施日 平成 24 年 1 月 4 日（水）ご依頼分より

■ 新規項目

検査項目	●IgA-HEV 抗体（定性）
------	-----------------

■ 新規項目内容一覧

項目コード (統一コード)	検査項目	検体量	容器	保存	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値 (単位)	備考
64197 (5F370)	IgA-HEV 抗体 (定性)	血清 0.3	↓ X	冷蔵	2~8	210 ※5	EIA	陰性	

※5：免疫学的検査判断料

● IgA-HEV 抗体（定性）

E 型肝炎において急性期から産生される IgA-HEV 抗体を測定します。

急性 E 型肝炎の診断に有用です。

E 型肝炎ウイルス（HEV）は、熱帯から亜熱帯の衛生状態が整っていない地域に常在するウイルスで、主に経口感染の後、急性 E 型肝炎を引き起こし、時に大規模な流行となる場合もあります。

従来、先進諸国では流行国からの輸入感染症と考えられていましたが、近年、渡航歴のない発症例が散見されています。それらの国内感染例とブタ、イノシシ、シカ等の動物からは、共通の国内土着の HEV が検出され、現在では動物を介した人獣共通感染症としてとらえられています。そのため、日本では、感染症法により届出が義務付けられている四類感染症に指定され、報告数は増加していますが、実際にはさらに多く存在すると推定されています。

E 型肝炎は、経口感染後 2～9 週間（平均 6 週間）の潜伏期を経て発症し、一過性の急性肝炎を呈しますが、一部で劇症肝炎になり、特に妊娠晩期では劇症化しやすいという特徴があります。

このたび受託開始いたします本検査は、日本土着株と想定される HEV 遺伝子の 3 型と 4 型に対応しており、E 型肝炎の感染初期から産生される IgA-HEV 抗体を検出することにより、成因不明の急性肝炎の診断に有用と考えられます。

E 型肝炎の早期診断により、劇症化を防ぐ慎重な対応や潜在的な感染者への対応が可能になると期待されます。

▼疾患との関連

- E 型肝炎

▼検査要項

検査項目名	IgA-HEV 抗体（定性）
項目コード No.	6419 7
検体量	血清 0.3 mL
容器	X（ポリスピッツ）
保存方法	冷蔵保存してください。
所要日数	2～8日
検査方法	EIA
基準値（単位）	陰性
実施料	210点（「DO12感染症免疫学的検査」の23）
判断料	144点（免疫学的検査判断料）
備考	

▼参考文献

飯野四郎, 他: 医学と薬学 53 (4): 461～469, 2005. (検査方法参考文献)

H.Takeda, et al: Vox Sanguinis 99: 307～313, 2010.